

4
APRIL

2020
VOL.19

Whisky Galore

[ウイスキーガロア]

【特集】Japanese Whisky

ジャパニーズウイスキー
100年への道

スコッチ・クラフト蒸留所
大名鑑[後編]

テイスター座談会 2019年を振り返って

コニサーのいるお店訪問

全国ぶらり旅 宮崎編

東京ウイスキー＆スピリッツコンペティション

採点基準の緊急提言

ZEMON
WASH STILL

DIGO DIGO WORKS



「ウイスキーファンは『酒はストレートで』という方が多いだろうが、町を見渡すとみんな水入り炭酸割りの酒を飲んでるのが昨今のニッポン。居酒屋ではスター・ターザーの王座を『ドリービー』からハイボールが奪いつあるし、果汁たっぷりの生レモンサワーはもはや唐揚げには欠かせない。日本は今や一億総炭酸好き民族と化しているのだ。

そんな中、とうとう来ました、ワインのソーダ割り。ワインはそのまま飲む酒の代表で、「ウイスキーはストレート」の比ではなく、なにかで割つたりしようものならソムリエやらフランス人やらワイン愛好家の偉い人から怒られ、さげすまれ、馬鹿にされるとびくびくしながら飲んでいたものだ(↑大げさ)。しかしどうとう、ソーダ割りオッケーの時代が来たのである。なんという解放感。素晴らしい、進歩と調和! LOVEフリーダム!

注目は、われらが日本生まれの葡萄酒「赤玉スイートワイン」のソーダ割り、題して『赤玉パンチ』だ。滋味と酸味が穏やかで、ちょっとだけスパイシーなどころが特徴の赤玉スイートワ

インは、ソーダ割りにしても甘さが心地よく残り、ビールの苦みやウイスキーのスマーキーさ、レモンの酸っぱさが苦手という人にも受け入れられる。これ、ほかのワインだとこうはならないんだろうなあ。

人形町「串屋横丁」はレトロな雰囲気とボリュームある串料理が人気の居酒屋で「赤玉パンチ」をおいしく出してくれる。軽い味わいの煮込みやコリツとした歯ごたえの酢モツもいいけれど、「赤玉パンチ」には甘辛い濃厚タレの「赤モツMIX」が相性ばっちり。そう、いわゆる、ひとつ、マリアージュってやつですね。最近気恥ずかしくなつてとんと使わなくなつたマリージュというドレッシーな表現もワインとなると居酒屋でも口をついて出てきちゃうの、うふふ。とろつと甘辛いタレにモツの旨味が、実にうんまい。『赤玉パンチ』専門家(→いるんですよ)によると、ソースたっぷりの好み焼きもマリアージュするんだとか。あー、それ、想像できるわー。

赤ワインには赤や茶色の料理、白ワインには白や黄色や緑色の料理という、ワイン&料理の簡単相性ルールがある

モツのタレ焼きと『マリアージュ』する居酒屋の第三勢力『赤玉パンチ』

Photo by Ayumi Fujita



串屋横丁 人形町店（三丁目店）

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-6-9
ジサプロー館
☎03-3527-3901
月～金 16:00～24:00
土日祝 16:00～23:00
年中無休
※お店では「赤玉スイートワイン」のボトルでのお取り扱いはございません。

が、『赤玉パンチ』には赤茶色のタレやソースたっぷりの料理が合うことを、ワインレッドのジョッキを手にして改めて実感してしまつた人形町の夜な夜なであった。

ともだきこ ソムリエとして酒類業界に携わり、ワイン・日本酒・焼酎・ビール・カクテルと幅広く精通。一般・プロ向けセミナー、料飲店・ホテル旅館等へのコンサルティング、観光PR支援等を行う。2016年より一般社団法人日本のSAKEとWINEを愛する女性の会（通称・SAKEの会）代表理事。著書に『ツウになる！ワインの教本』『ツウになる！ワインの教本』など。